

佐賀市 16 歴史探訪

じっ けん ほり がわ 十間堀川

普通、お城の堀には「外堀」とか「内堀」と呼ばれるものがありますが、佐賀城の堀にはその名称がありません。また、お城の防備は「高い石垣や深い堀」というのが一般的ですが、佐賀城は平坦な土地に造営されていますので、「広い堀」に防衛機能を持たせています。それだけではなく、城の廻りには侍屋敷を配置し、その外に町家が造られ、さらにその北側に十間堀川が佐賀城の北約500メートルのところに東西方向に造られ、佐賀城の防備としました。この十間堀川がいわば佐賀城の外堀であり、佐賀城を囲む堀が内堀ということができます。

十間堀川は、1間を1.81メートルとして換算すると約18メートルの川幅になります。ここが北から攻めてくる敵を食い止めるための第1の「備え」であり、川の南岸には土塁が平行して延々と築かれていました。また、十間堀川の北側には2つの寺院が築かれました。清心院と天祐寺です。これは、佐賀城から見て北東と北西の「鬼門」に当たり、佐賀城を災いから護るという思想もありますが、これらの寺が描かれている江戸時代の絵図をみると、周りを堀で囲み小規模な「砦」のようにもみうけられますので、陣屋的な役割を持たせていたものとも考えられています。また、この川は、佐賀江を経由して物資運搬のための水路としても機能していました。

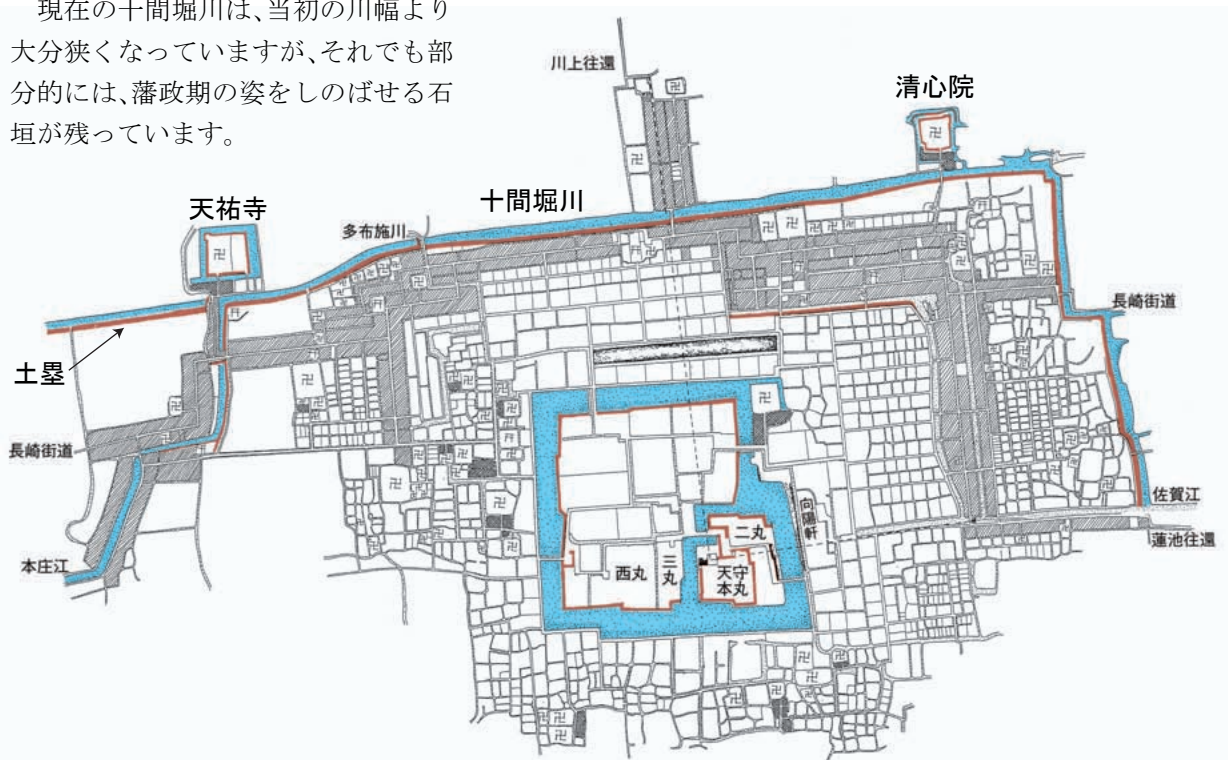
現在の十間堀川は、当初の川幅より大分狭くなっていますが、それでも部分的には、藩政期の姿をしのばせる石垣が残っています。



▲白山二丁目から西方をのぞむ



▲勤興公民館付近から西方をのぞむ



承応三年の城下町佐賀(「佐賀城廻之絵図」より)

佐賀城廻之絵図